



学業報告会

自由学園女子部 中等科・高等科

2019年11月30日 (土)

午前の部 午前 9:30～

午後の部 午後 13:30～

於 記念講堂

プログラム

数学 図形について 中等科 1 年

理科 私たちの星 地球 中等科 2 年

体操 中等科 3 年

《高等科グループ発表》

—ステージ発表—

曲作り

女子部をよくするデザイン

Feminism (フェミニズム)

木の学び

英語でのスピーチ：若者の政治参加

現代の政治にどのように関心を持てるのか

世界遺産と人のつながり

さまざまな障がいについて考える

未来の自由学園を考える

—ポスター発表—

一から考える昼食作り 女子部の生活をより良くするために

統計について

金属と生活

1960 年代以降日本で流行した歌について

私たちの服装の歴史と未来

オリンピックを考える

2019 年度学業報告会ドキュメンタリー制作

運営グループから

中等科発表 指導者の言葉

中等科1年 数学

「 図形について 」

伊藤洋美・鈴木雄紀・長左絵

平面図形について、3つのグループに分けて学びを深めました。

グループ1は「タイルばり」です。平面を有限種類の図形で隙間なく敷き詰めることを、「タイルばり」とか「平面充填」と言います。「どんな図形がタイルばりできるのか」という素朴な疑問からはじめ、様々な問いを立て、実際に皆で手と頭を動かしながらその答えを検証してきました。

グループ2は「はとめ返し」です。はとめ返しとは三角形や四角形などの図形を、ある約束にしたがって4つの多角形に分割し、ばらばらにならないようにはとめを打ってひもで結びます。4つの頂点が中央に集まるように真ん中からぐるりと裏返すとどんな図形が現れるか、これがはとめ返しという図形パズルです。四角形を面積が等しい別の形の四角形に、また三角形、五角形や六角形にも変形できるのかなど、問題を発展させながら、試行錯誤して確かめていきました。

グループ3は「三角形の五心」です。教科書に載っている垂線や角の二等分線の作図方法を使って、「外心」「内心」「重心」「垂心」「傍心」の作図や性質を学びました。その後、身近なものを使って工作や実験を行い、それぞれの性質を可視化することを試みました。

教科書の内容を超えて、遊びの中に潜む数学の学びを報告します。

中等科2年 理科

「 私たちの星 地球 」

梶野ルミ子・星住リベカ

中等科2年の学習テーマは、動物の世界を知ることです。多様性に満ちている地球の現在の姿を理解していくことは、簡単なことではありません。まずは、その姿を観察し、生物の不思議を感じるところから始まります。生物の持っている共通性にもとづいて分類し、生物界の階層性について学びます。その分類に従って表わされた系統樹からは、生物がどのように進化してきたかも読みとることが出来ます。

三浦半島への理科と社会科の校外学習は、本物を学ぶ大切な機会です。理科では、油壺に隣接する荒井浜の磯で海の生物を観察し、小網代の森では森から干潟まで、環境の保全について学びました。地学では、城ヶ島の地層を観察し、この地域がどのように造られたのかを考えました。また、なぜ大潮を選んで日程が決められるのか、干潮と満潮はどのようにしておこるのかを理解しました。さらに、国立科学博物館で、現在の生物がどのように誕生してきたかを学ぶことで、地球が生物のすみかとなり、多様性を持つ生命を育ててきたことを実感しました。

授業は、観察や調べ学習を繰り返し、協力して学び合う時でした。それらを基礎として、報告会にむけてクラスを3つのグループに分け、全体のストーリーを構成することで、動物の世界を地球の歴史と共にとらえることができました。

私たちが生命の歴史の中にあって、どのように生きていくかを考える糸口になることを願っています。

中等科3年 体操

「 世界が一つになるオリンピック 」

山田恵子

2020年、いよいよ東京でオリンピックが開催されます。近代オリンピックはクーベルタンによって提唱され、世界中の若者がスポーツを通して互いに理解し認め合い友好を深めることが世界平和に貢献すると願い創られた大会で、「平和の祭典」として発展してきました。私はこの夏、国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム（於フランス）に参加する機会をいただき、人種、国籍を超えたスポーツ、文化の交流が平和の礎となることを正に実感しました。東京オリンピック・パラリンピックが様々なメディアで注目される中、生徒の中にはオリンピックは特別なもの、あまり関わりのないものとする人もいます。オリンピックはオリンピズムの理念の基、現在は競技者だけでなく、私達も「学ぶ、観る、する、支える」といった視点から様々に関わる機会があります。中等科3年生も報告会の学びから、オリンピックに込められたオリンピズムの精神を理解し積極的に関わる素地を育み、それぞれの生涯においても平和をつなぐ1人になるよう学びを深められたらと願います。

クラスではこれまで調べ学習や体験を行う地、平和学習として戦争体験を伺い、広島海山へ研修旅行にも出かけました。また国際ピエール・ド・クーベルタン委員会の副会長、田原教授からその歴史やオリンピズム、女性とスポーツなどのお話、パラリンピック候補選手の卒業生、有安さんからスポーツと生きがいについて伺い視野を広げてきました。本日はそれらの学びから「歴史、競技、文化・国際交流、オリンピックの精神、2020年に向けて」の5つのグループに分かれて報告します。展示も是非ご覧ください。

高等科グループ発表 生徒の言葉

—ステージ発表—

曲作り

音楽が好きな生徒9名が、もっと音楽を深めたいという気持ちから「作曲」という難しくも面白い挑戦を始めました。

「曲作り」は今回女子部初のテーマとなります。グループの中には作曲をしたことがない人もいますが、楽器ができる人、パソコンを上手く使える人、調べることが得意な人など、それぞれ自分のできることで最大限の力を出して、高等科一年と三年の2つのグループの発表に至りました。好きな曲のジャンルも違うメンバーですが、だからこそ知らない音楽に触れることができ、刺激を受けました。

今回の学業報告会で取り組んだ過程がそれぞれのこれからの自己表現につながれば良いと思っています。

女子部をよくするデザイン

「時間の使い方グループ」

女子部は時間に余裕がない。「もっと生活に余裕を」をテーマに女子部の全学年を対象にアンケートを行い、今の時間の使い方に満足しているか、改善したい点があるか等を調査しました。その結果から傾向毎の生活改善策を提案します。

「食のグループ」

社会的に問題となっているフードロス。女子部でも残食が毎日出ています。この課題をみんなが喜ぶ方法で解消します。調査結果から残食がある一方でお腹が空く時間帯もあることがわかりました。残食をリメイクして何を提供するのか模索します。

「男女の違いグループ」

性別関係なくやりたいことができるようにしたい。女子部と男子部の違いをアンケートで比較し、教職員の方々に協力を得ながら違いを明らかにします。自由学園が男女の共生に向けて変わる中で、まずは小さな社会の中から変えるきっかけを提案します。

「まとめ」

高3では、学園生活をよりよくするためにデザインなどのクリエイティブな力を使って取り組みました。

Feminism (フェミニズム)

We are 5 dedicated independent strong individuals from jiyu gakuen, with one main goal in our hearts. Which is, to spread awareness about feminism. We feel that especially in Japan, there are not many individuals being openly vocal about the current and past situation on womens' rights, and feel that it is on our behalf to use this opportunity to raise awareness on the topic. We are not here to tell you what to think, but to present you with information about feminism from different perspectives. It's up to you to make up your own opinions, so don't feel obliged to do so.

私たちは今回のプロジェクトを進めるにあたり1つの目標を掲げました。ある1つの目的を持って今回の学びを進めてきました。それは、「フェミニズム」に関して皆に知ってもらうことです。特に日本ではデモや女性の権利について主張したり、自分たちの意見を社会に発信していたりする人が少ないと私たちは感じています。そこで私たちは、学業報告会を通して、多くの人にこのトピックについて考えてもらいたいです。私たちは皆さんに意見や考え方を押し付けるのではなく様々な視点から見たフェミニズムについて知っていただければと思っています。どう考えてどのような意見を持つかは皆さん次第です。

木の学び

自由学園では教室の木製の机と椅子を、古いもので80年使用してきました。老朽化と機能性の見直しによって、2012年に生徒たちが新しい机と椅子を考えるプロジェクトチームを立ち上げました。

これまで3代に渡って活動を行い、使用してきた机と椅子の現状調査や、生徒の身長調査から始め、デザインの考案、試作の検証、材料となる木材についても学びを深めてきました。

このプロジェクトでつながった岐阜県の森林ボランティア団体「ものづくりで森づくりネットワーク」の方々のご協力によって、広葉樹の「樹・人・もの」が繋がり生まれるものづくりプロセスを体感することができました。

今回の報告会に向けて、机と椅子を入れ替えた3年間の活動についてのまとめを行いました。そして、今後どのように女子部の生活と木をつなげていくか各学年で考えてきました。

私達の発表を通して、皆さんにも木を使ったものづくりに少しでも興味を持って、一緒に森について考えて頂けると嬉しいです。

英語でのスピーチ：若者の政治参加

あなたは政治と聞いたら何を連想しますか。現在の日本の政治に関して、若者の投票率が低いことが問題になっています。では、私達はなぜ選挙に行かなければいけないのでしょうか。18歳からの政治参加を目前にひかえた私達は、英語を通してこれらの疑問について調べたこと、そこから得たアイデアをステージで発表します。

このグループは英語を勉強することが好きな人、英語でのコミュニケーションが好きな人たちが集まりました。スピーチの土台を作り上げるために、話し合いや調べ学習を重ねました。また、様々な分野のスピーチを見て、演説者のジェスチャーや話し方などを分析し、お互いにアドバイスを交わしながらスピーチに磨きをかけました。英語、政治、現代社会など様々な分野を組み込んだ私達の努力の集大成をお聞きください。

現代の政治にどのように関心を持てるのか

私たちのグループは現代の政治が昔の政治と比べてどのように変わってきているのか、現代の政治にはどのような問題点があるのかなどを考え、また自ら自分たちでデモなどの活動に参加してどういった意見を持った人たちが声を上げているのか、自分たち若者はこれからの政治をどう変えていくべきなのかを考えました。九月十九日のデモに参加し大きな衝撃を受けた私たちは今の政治を変えるべく、まずは昔の民主主義、平和運動などの歴史を元に今の政治について調べていきました。調べていて私たちは沖縄の軍基地問題や核兵器問題などに注目しました。また、デモに参加したことでも若者の政治への関心の無さにも気がつきました。

そこで、さらに私たちは、なぜ若者は政治への関心が無いのか、またどうすれば関心を持ってくれるようになるのかも考えました。あくまで私たちの考えであり、日本には様々な意見を持った人たちがいます。同じ意見であってほしいわけではなく、少しでも皆さんが政治について感心、興味を持ってくれれば良いなと思って頑張りました。

世界遺産と人のつながり

私たちは世界遺産を歴史、建築、経済の面から調べ、人間がどのように世界遺産と関わってきたのか、これからどのように関わっていくべきなのかを考えました。

今回は、グループのメンバー全員の興味が一致したサグラダ・ファミリアにフォーカスし、歴史や建築について報告します。

まず、世界遺産とは何なのか、サグラダ・ファミリアはどのような歴史を抱えているのかを説明し、サグラダ・ファミリア建築が始まった社会的背景について報告します。その中で、建築家アントニオ・ガウディ・コルネットの人生を辿り、当時の時代背景を解き明かします。サグラダ・ファミリアの塔ひとつひとつにある意味や彫刻、ステンドグラスなどからその特徴的なデザインに迫ります。最後に、世界遺産を経済面から見ていきます。日本の世界遺産での経済効果、他国の世界遺産に対する日本の資金援助についても調べました。

今回の報告にあたり、世界遺産検定マイスターの資格をお持ちの方や、エジプトで文化財の保全などに関わられた方にお話を伺いました。いただいた知見も踏まえつつ、楽しい報告にします。

国内では、世界遺産に登録されている沖縄の首里城が火事にあったことが大きく報道されたばかりです。この報告を通して、世界遺産を身近に感じてもらえるといいです。

さまざまな障がいについて考える

私たち、「さまざまな障がいについて考える」のグループは、身体障がい、発達障がい、知的障がい、そして社会の観点から、障がいについて考え、学びを深めてきました。

障がいに関する話題は一般的に、難しいと考えられがちですが、報告では、わかりやすくなるように工夫を重ね、会場の皆様とともに、問題について考えたいと思っています。

準備期間中は積極的に、障がいのある方を訪ねお話を伺い、ディスカッションなどを通して見識を広げ、報告会に向けて準備を進めてきました。「ふつう」とは何か、障がいは本当に「障がい」と呼ぶべきなのか、両者に違いはあるのか。報告会では皆様に問いを投げかけつつ、ともに考えを深めていきたいと思っています。お聞きいただいた後、皆様の「障がい」のイメージが変わるような報告の内容にしたいと思っています。報告会後の展望として、更に学びを深め、自分たちにできることを行動に移すこと、また障がいへのマイナスな意識を少しでも変えることを目標に活動を行っていききたいと思っています。

未来の自由学園を考える

未来の自由学園はどのような進化を遂げるのでしょうか。100周年を迎える学園は共生共学を掲げました。それについて共生について考える私達のグループでは、本質的な問いを考え、三つのテーマで学びを進めてきました。その三つとは「残す学び」「新しくしたい、やってみたい学び」「社会に出て役立つ学び」です。新たな100年への一歩であり、この報告は通過点であると考えています。これをきっかけに両部がお互いを知る機会を増やすなど、積極的な交流や行動が増えたら良いと思います。

社会問題のグループでは、ソーシャルアクションに焦点を当てました。私たちはまず、貧困について考えました。日本の子供たちの貧困について、もっと身近な問題として知ってほしいという思いから、子供食堂について調べました。子供食堂とは地域貢献の場であると考えた私達は、私立である自由学園も子供食堂を開設し、交流が少ない私達も食堂開設によって交流機会を増やせるのではないかと考えました。遠い世界ではなく、身近な社会の問題です。考えるきっかけになれば良いと思います。

—ポスター発表—

一から考える昼食作り 女子部の生活をより良くするために

統計について

数学のグループでは、女子部の生徒が毎日つけている生活表のデータを用いて記述統計を学びました。このテーマを選択したきっかけは、ニュースで見た老後資金問題でした。平均値で算出された数値の正確性が問題になっており、興味を持ちました。平均値のみでは一部の突出した値に大きく左右されてしまい、必ずしも全体の代表としてふさわしい数字が出せるとは限りません。

生活表についても昼食時に、勉強時間、睡眠時間のクラス平均などが報告されていますが、極端に睡眠時間が短い人や、まったく勉強していない人は考慮されず、同じような問題が起きているのではないかと考えました。そこで、高等科二年生の一人一人のデータを用いて箱ひげ図を描き、検証してみました。

今回調べ、わかったことを、クラスで共有し、今後の生活で活用できると良いと思います。

金属と生活

周期表に並んでいる元素約100種類は、非金属元素と金属元素に分けられる。金属元素はその約8割をしめている。金属元素の原子の集まりが金属という物質である。金属の特徴は、大まかに以下の3点である。

- 1) 金属光沢を持つ
- 2) 電気や熱を良く伝える
- 3) たたけば広がり（展性）、ひっぱると伸びる（延性）

人類が初めに使用したと思われる金属である金と、最も大量に使用されている金属である鉄を取り上げ、人類の歴史・生活とのかかわりについてポスターにまとめた。また、金属元素がどのような生活用品にふくまれているか調べ、身の回りにある実物を集めてみた。これらのうち非金属を含め身近なものに含まれている20種の元素についてはカードを作成した。これは今後数を増やして「自由学園の元素図鑑」にしていきたい。夏休みには佐渡に旅行して砂金採集を体験したり、各地の科学博物館や刀剣博物館を見学、実物を集め、大きなものは写真撮影をした。さらに金属の性質についていくつか実験をおこなった。

なぜ金などの貴金属が初めに使用された金属なのか、鉄を得て人類の社会は大きく変化したことなど、周期表と歴史が意外に深い関連があることがわかり、興味が深まってきたことを嬉しく思う。

1960年代以降日本で流行した歌について

私たちは、J-pop, K-pop, バンド、洋楽、ポップホップ、アイドルなど、メンバーが興味を持った様々なジャンルにおける1960年からの流行曲を調べ、それらに時代背景を重ね合わせて、楽しみながら見るができる年表を作っています。流行曲から読み取れる時代の流れを考察したいと思っています。

私たちの服装の歴史と未来

私たちは「服装」をテーマとし、考えてきました。

私たちが服装をテーマとして選んだ理由はいくつかありますが、その中でも特に時代の流れによる変化があります。今までの服装では、女性はスカート、男性はズボンというイメージがあり、それに従った服装をしてきました。

しかし近年様々なところで男女平等という言葉を聞きます。LGBT等についても、多くの問題が上がっています。身体は女性でも、心は男性の人やその逆の人もいます。その中で、見た目の性別などで服装を決めてしまうのは果たして「自由」でしょうか。

特に自由学園では服装は自分で選び着ることを大切にしています。学生らしい服装であることは当然ですが、女子部の服装がスカートでなければならないというのはどうなのかと、近年全国的に広がりつつある制服のスラックス化について自由学園でも考えてみようと思ったのです。

二つ目は環境問題です。服の流行はすぐに入れ替わります。せっかく買ったけど一回しか着なかったな。そういう服はないでしょうか。

今の私たちにとって服は安い値段で買うことができます。しかしその背景で多くの人が安い賃金で働かされ、環境を汚染しているのです。そんな裏側をご存知でしたか？

オリンピックを考える

私達は「建築」「経済」「レガシー」の3つの観点からオリンピックについて調べました。実際に建設中の「新国立競技場」と今年9月に出来たばかりの「オリンピックミュージアム」にも見学に行きました。パソコンや本などの情報だけでなく、実際に過去のオリンピックで使われた聖火や衣装、ポスターなどの展示から細部のデザインの工夫など初めて見ることも沢山あり、開会式のシナリオ他の貴重な資料からも学びを深めることが出来ました。普段見えない部分を見ることで多方面から考え、戦争と平和とオリンピックの関連性など理解を深めることが出来ました。今回得た学びをこれからの生活、将来に活かしていけると良いです。

2019年度学業報告会ドキュメンタリー制作

私達のグループは、未来の学園生のための記録映像を作成しています。今回の学業報告会では、これから先の自由学園の学び方について考えているグループが多く、その中でも、もし学園の今のカタチが変わったとして、なぜそのような新しい学び方になったのかが分かる記録と、今の学業報告会はどのように準備・発表しているかが分かる記録を作るために、いくつかのグループをピックアップし、撮影することにしました。

卒業生で映画監督の瀬瀬さんから撮影のコツと編集の方法を教えてください、解散後などを利用して撮影と編集を進めました。自分達で編集作業をする中で、どのような映像が編集しやすいか、どのような撮り方が見ている人に伝わりやすいかなどが分かるようになり、次の撮影に活かし、より良い映像を作ることができています。

撮影する中で、男子部と女子部のディスカッションや、校外に見学などに行くときに、私たちも加わることがあり、その中で普段意見を言わない人が自分の気持ちや考えをはっきりと伝えていたり、あまり話したことがない他学年や男子部生と話す機会があったり、新しい学園を見る事ができ、このグループに入ることができ本当に良かったと思います。

学業報告会では、予告編しかお見せする事ができませんが、後日、報告会当日の映像を加えた本編を見ていただきたいと思います。生徒、先生の皆様には記念講堂での上映という形で見ていただけるように検討しております。

ぜひ、私達の力作をお楽しみください。